

人池

1/23「くぶる祭」大成功！

昨年まで「春を呼ぶ会」と称していた行事を「くぶる祭」に変更し、1月23日(木)のフリー参観日に開催しました。開会式の中で各学年の音読発表を行い、7月の発表から成長した姿を見ていただきました。「くぶる祭」の出店では、くぶる班ごとに考え工夫した出店を各教室に設置して、子どもたちがスタンプカードを持ってそれぞれを回り、ゲームなどを楽しみました。また、明治保育園の年長さんからも参加していただき、4月の入学を見据えた交流を図ることができました。保護者や地域の方々からもたくさんお越しいただき、子どもたちと楽しい時間を過ごしていただきました。どの会場も笑顔いっぱい、生き生きと活動する子どもたちの姿が見られ、大変うれしく思います。そのときの様子を写真で紹介します。



4年生の音読発表



赤1班 トランプ合わせ



白1班 輪投げ



赤2班 キャラクター当てクイズ



クリアできた！！



白2班 宝探しゲーム



赤3班 倒せ！アルミ缶タワー



白3班 ボウリング



赤4班 まと当て



白4班 箱の中身は何だろう？

次の大きな行事は2月4日(火)のウィンタースクールです。少雪のため少し心配な面もありますが、保護者や地域の皆様のお力をお借りして大成功を収めたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

「あいさつは心をつなぐ虹の橋」

作家北杜夫さんの兄で精神科医であった斉藤茂太さんの本「いい言葉は、いい人生をつくる」を読んでいたなら、とてもすばらしいことが書いてありましたので紹介したいと思います。



イギリス人は、ちょっとしたことにも必ずサンキュウとつけ加える。デパートで買い物をしても、店側はもちろん、買った人も「キュッ」。駅で切符を買っても「キュッ」。この小さな感謝が、人間関係をどれほど和らげているか、はかりしれない。この「キュッ」に、必ずニッコリと微笑みを添えるところが、またいい。

イギリスでは家庭の中でも、ものを頼むときは「プリーズ」を、何かをしてもらったら「サンキュウ」を言うように子どもをしつけていると聞く。「サンキュウ」「プリーズ」「エクスキューズ・ミー」の3つのあいさつこそ、ジェントルマンシップを象徴する言葉だと言われている。

個人主義の国だからこそ相手の人間性を尊重する大切さを知っているのだろう。

この例のようにマナーとは、自分がしてほしいことを他人のためにし、自分がされたいやなことを避けることにほかならない。たがいの心の健康法なのである。

そして、別にお礼を言われたいと思ってしているわけではないが、やはり、他人のためを思って何かをした場合は、「ありがとう」の一言が聞きたいものだ。

だから私は、どんなことでも、家内や孫に対しても「ありがとう」と声にはっきり出して言うように心がけている。

3学期になってからあいさつのレベルアップを図る取組を行ってきた結果、登校時のあいさつがとてよくなり、ハイタッチを交わすほほえましい姿もたくさん見られています。登校してきた子どもたちと元気にあいさつを交わす朝のふれあいは、私の一日の活力になっています。この気持ちは、私だけでなく、あいさつを交わしただれもが感じる気持ちだと思います。目と目を合わせて、元気よく「おはようございます」とあいさつができることは、これからの生活にとって必ずプラスに働きます。この習慣を大切にしていきたいと思います。



消防署見学で礼儀正しさをほめられた3年生

「おはようございます」のあいさつだけではなく、「ありがとう」「失礼しました」「すいません」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさまでした」などのあいさつが、学校だけでなく、家庭や地域社会でも当たり前に行えるようにしていきたいものです。

今、多くの企業が採用する職員に求めている重要な資質のひとつに、あいさつをはじめとする「コミュニケーション能力」があげられます。それだけ、社会人として不可欠で重要な要素と言えます。

子どもの姿は、大人社会の鏡です。学校・家庭・地域社会が同じ方向を向いて、一体となってあいさつができる明るい子どもたちを育てていきたいものです。みんなで力を合わせていきましょう。